

令和6年度からのルール変更についての留意事項

2024年4月 鹿児島県高体連テニス専門部

1 ノーレット方式について

- (1) サービスが、ネットやセンターストラップ等に触れてもプレーが続行（インプレー）される方式。
（サービスがネットインしてもサービスの打ち直しにはならず、プレーが続行されます）
- (2) 団体戦、個人戦（単複とも）を問わず、全ての試合で採用される。
- (3) 留意事項は以下のとおり（試合中のトラブル回避のために確認しておくこと）
 - ① 審判がついている試合で、審判が誤ってレットをコールした場合は、ポイントレット（ファーストサービスからの打ち直し）となる。
 - ② 審判がついている試合で、選手がスタンダード方式のとおりレットだと思ってプレーを止めてしまった場合は、その選手の失点となる。
 - ③ セルフジャッジの試合でレットをコールした場合は、1回目に限り故意でない妨害と見なしてポイントレットとなる。2回目以降は失点となる。
 - ④ サービスされてネットに触れたボールが、ノーバウンドでレシーバーやそのパートナー、またはその着衣や持ち物に触れた場合は、レシーバーの失点となる。
 - ⑤ サービスされてネットに触れたボールが、ノーバウンドでサーバー側の前衛、またはその着衣や持ち物に触れた場合は、フォルトとなる。
 - ⑥ スタンダード方式のまま試合を進めてポイントが成立し、その後にノーレットであることに気付いた場合は、気付く前に成立したポイントとは有効となる。
 - ⑦ 「ショートセット（4ゲームでの試合）」での「ダブルス」の場合は、ネットインしたボールをレシーバー側のどちらの選手が返球しても構わない。

2 ノーアドバンテージ方式について

- (1) デュースになった場合、次の1ポイントを取得した方がそのゲームを取得する方式で、レシーバーはコート右側か左側のどちらでレシーブするかを速やかに選択しなければならない。また、一度選択したらレシーブするサイドを変更することはできない。
なお、審判のコールは、「Deuce. Deciding point. Receivers choice.（デュース。ディサイディング・ポイント。レシーバーズ・チョイス）」である。
- (2) 「個人戦」における「8ゲームプロセット以上のダブルス」で採用される。
- (3) 留意事項は以下のとおり（試合中のトラブル回避のために確認しておくこと）
 - ① スタンダード方式で試合を進め、後で誤りに気付いた場合の対処は以下のとおりである。
 - ・誤りに気付いたときにデュースであったら、すぐにノーアドに切り換える。
 - ・デュースの後に1ポイントをプレーした時点で誤りに気付いた場合、その結果は有効となり、そのゲームは終了したものとする。
 - ・誤りに気付いたときにゲームが終了していたら（デュースの後2ポイント差をつけていたら）、その結果は有効となり、ゲームは終了したものとする。